

2018年3月期決算説明会

2018年 5月 21日
日本アビオニクス株式会社



目次

- 1 . 2018年3月期決算
- 2 . 2019年3月期通期業績予想
- 3 . 資本勘定内の振替及び山梨アビオニクス吸収合併
- 4 . 中期経営計画の進捗状況

商号	日本アビオニクス株式会社 Nippon Avionics Co., Ltd.
設立	1960（昭和35年）年4月 NECと米国ヒューズエアクラフト社との合併 会社として発足
株主	NEC 50.004% その他 49.996%
資本金	58億9千5百万円 (東証2部上場 証券コード：6946)
連結子会社	山梨アビオニクス、福島アビオニクス
売上高	連結 187億円 単独 187億円 (2017年度)
従業員数	連結 810名 単独 710名 (2017年度末現在)
拠点	本社 : 東京都品川区 事業所 : 横浜事業所、新横浜事業所

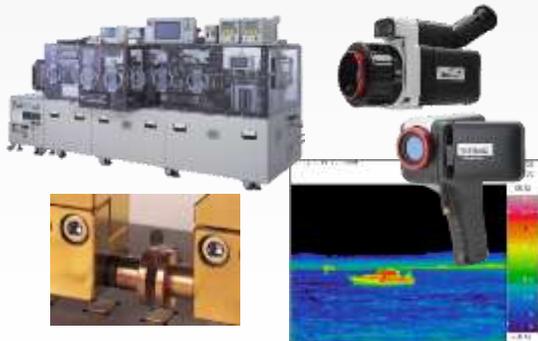
セグメントの概要

電子機器

売上高比率
2017年度実績
38%

接合機器 赤外線サーモグラフィ

- ・接合機器で“つける”ソリューションを提供
 - 水晶デバイスの封止
 - スマートフォン / エコカー部品の組立 etc.
- ・熱を可視化する“サーモグラフィ”
 - 電子部品・金型
 - 発電所・プラント監視 etc.



情報システム

売上高比率
2017年度実績
52%

防衛・宇宙向け情報システム製品

表示音響装置、誘導搭載装置、
指揮統制装置、ハイブリッドIC

- ・防衛分野向けリアルタイム・耐環境製品
 - 護衛艦・潜水艦の情報表示装置
 - 指揮管制システム構成品
 - 陸・海・空の装備品搭載装置
- ・宇宙分野向け高信頼・高耐環境製品
 - JAXA認定ハイブリッドIC etc.



出典：海上自衛隊HP

出典：海上自衛隊HP
<http://www.mod.go.jp/msdf/formal/gallery/ships/dd/akizuki/115.html>

プリント配線板

売上高比率
2017年度実績
10%

高多層基板 テストボード

- ・超高多層 高密度プリント配線板
 - 人工衛星等で使用
 - 半導体試験市場向けボード etc.



1 . 2018年3月期決算

2 . 2019年3月期通期業績予想

3 . 資本勘定内の振替及び山梨アビオニクス吸収合併

4 . 中期経営計画の進捗状況

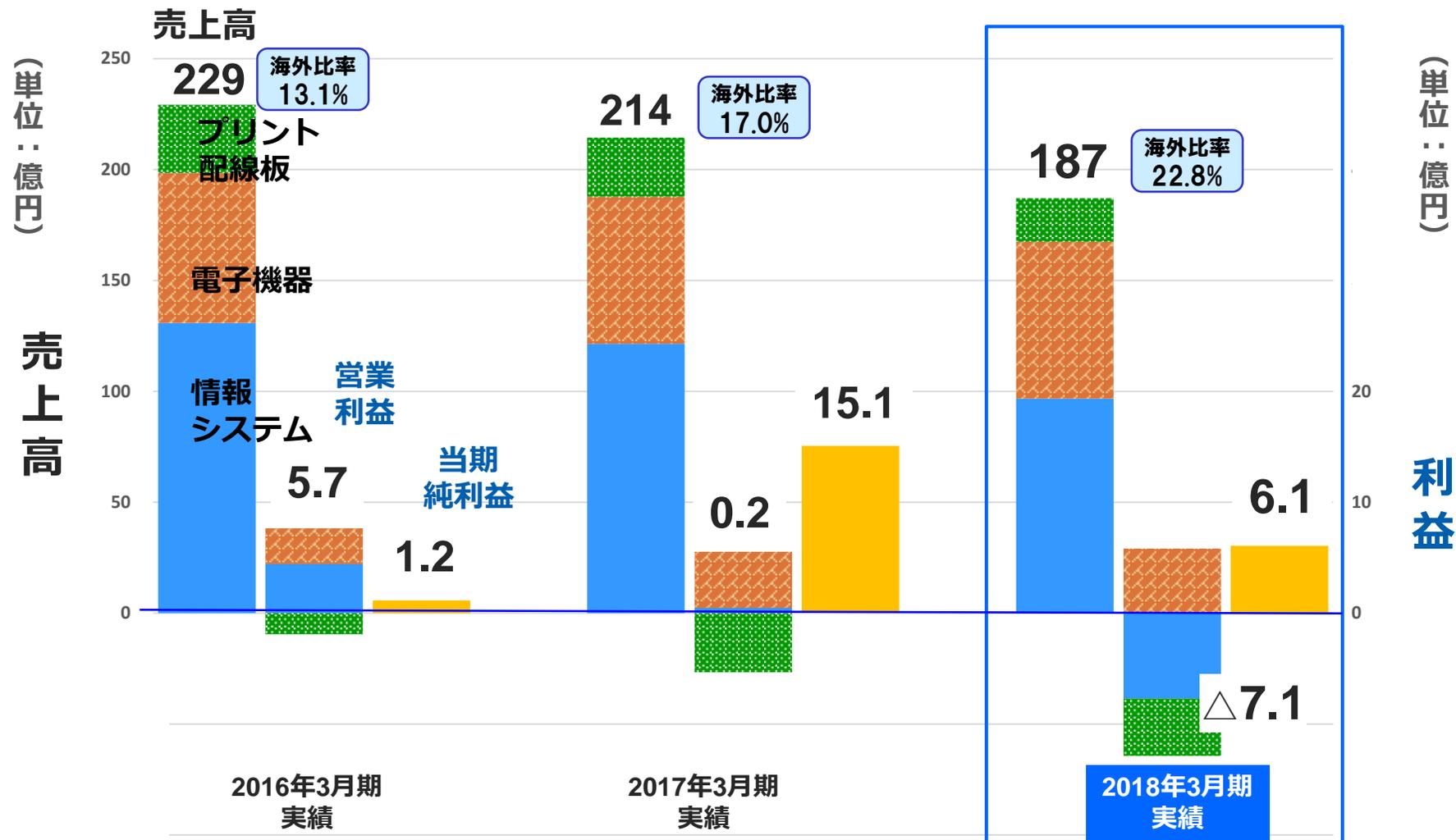
2018年3月期 業績サマリ

(単位：億円)

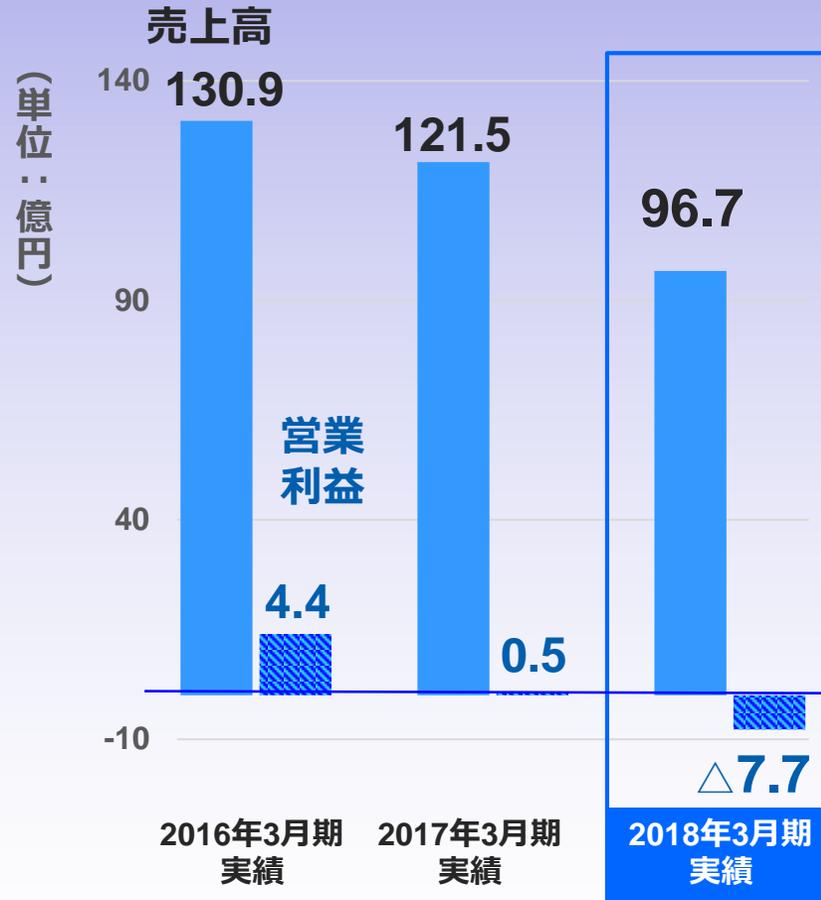
	2017年3月期 実績	2018年3月期 実績	増 減
売 上 高	214.4	187.1	△27.3
営 業 利 益	0.2	△ 7.1	△ 7.3
経 常 利 益	△ 0.6	△ 7.6	△ 7.0
特 別 利 益	36.9	16.0	△ 21.0
特 別 損 失	17.8	2.3	△ 15.4
当 期 純 利 益	15.1	6.1	△ 9.0
フリーキャッシュフロー-(FCF)	36.2	△18.6	△54.8

2018年3月期 売上・損益概況

- プリント配線板事業の移管は計画通りに進捗
- 防衛関係の国内調達の低迷により情報システムが減少



2018年3月期 決算 情報システム

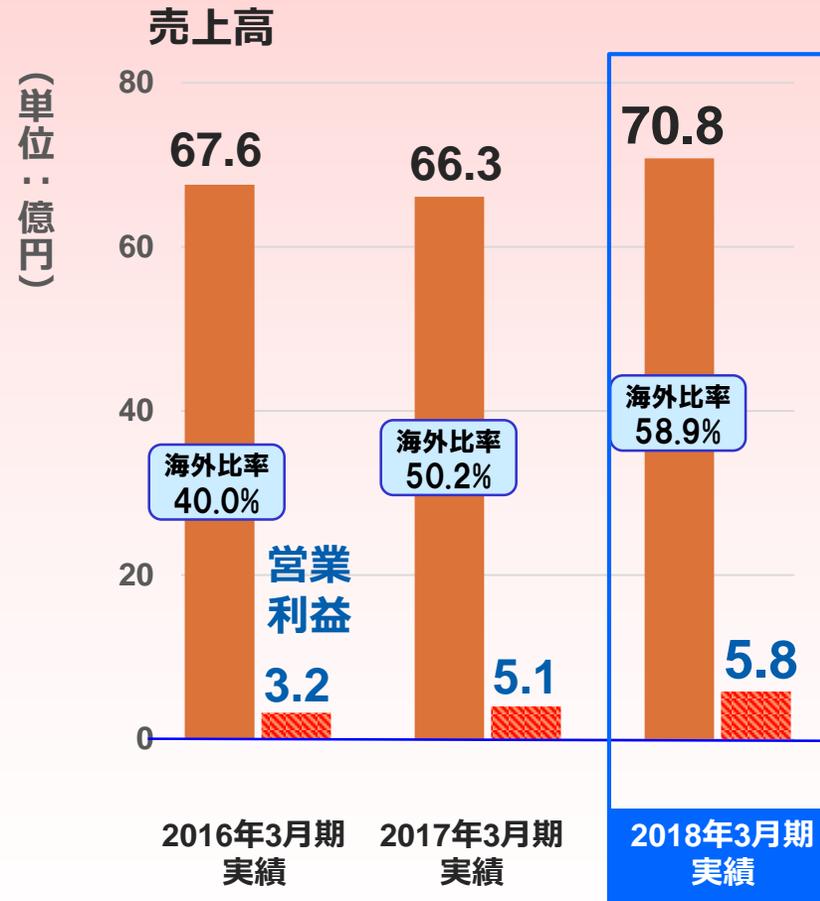


売上

- ・ 防衛省の海外調達の水準が高く、国内調達は低調に推移
- ・ 部品の逼迫による翌年度へのずれも発生

損益

- ・ 売上高減少により粗利減少
- ・ 売上高減少による操業低下
- ・ 一部の不採算プロジェクトによる原価悪化の発生



売上

接合機器

- ・スマートフォン等の部品の小型化向け製造装置の需要増
- ・アジア地域を中心に輸出増加

赤外線サーモグラフィ

- ・脱着型サーモグラフィ等の差別化製品を投入

損益

- ・売上増加により営業利益増加

接合機器 トピックス

I 自動車部品市場の攻略

電動化、自動化により変化する部品の接合に顧客価値提案

① 内装樹脂部品

◇ 自動機搭載型超音波発振機 SW-D900S-39 業界最速樹脂かしめ



ドアトリム
かしめ

② 車載ハーネス

◇ 超音波メタルウエルダ SW-3500-20 国内最大径のハーネス接合

◇ 抵抗溶接機 NRW-IN16K4 品質向上 (良品率UP)



アルミハーネス・銅端子接合



ハーネスコンパクト化接合

③ 車載モータ

◇ 抵抗溶接機 NRW-IN400P 品質向上 (良品率UP)



ヒュージング接合

2018年3月期 決算 電子機器

赤外線サーモグラフィ トピックス

Ⅰ 差別化製品投入による顧客価値創造へ

① 測れなかったところが測れる！ “オンリーワンサーモ”

◇カメラヘッド脱着型サーモ F50シリーズ

- ・狭いところ：インパネシート貼付け後の温度ムラ検出（自動車）
- ・恒温槽内：恒温槽でのカーナビ基板の環境試験計測（電装）
- ・広い視野：データセンターの空調管理（通信）



② “見る”から“検査”へ！ “ネットワーク型固定設置サーモ”

◇高解像度固定設置サーモ TS600

- ・製造ラインでのフィルムキズ検査（化学）
- ・製造ラインでの製品検査（食品）
- ・大型プラントの防災監視（鉄鋼/電力）

※新日鐵住金株式会社殿より「機材調達部パートナー表彰 銀賞」受賞



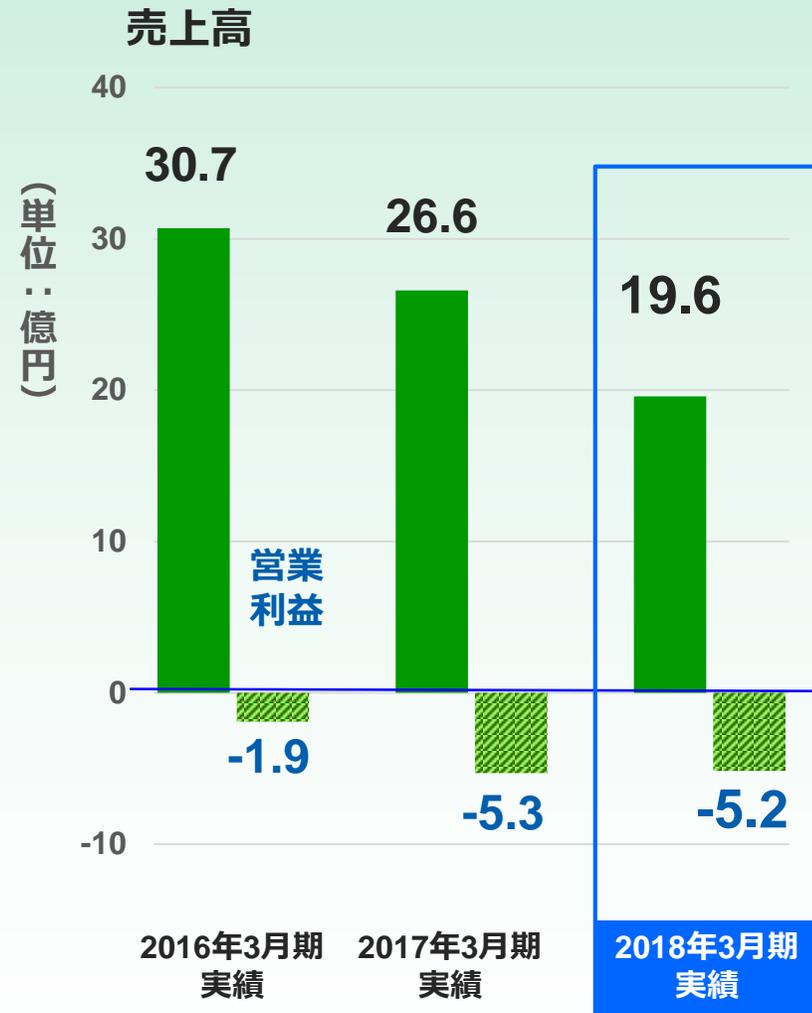
③ “見る”から“予兆監視”へ！ “アルミ表面の温度計測”

◇金属温度計測サーモ TS300SW

- ・アルミ計測：アルミの直接加工時の品質管理（金属）
- ・アルミ金型計測：金型温度分布による品質管理（自動車）



2018年3月期 決算 プリント配線板



- ・ 事業移管が進捗し生産規模縮小
- ・ 稼働の平準化、生産性向上により利益は前期比改善（計画比大幅改善）
- ・ 2018年3月末に山梨アビオニクスが生産が終了し、更地化へ向けた準備開始

プリント配線板事業の収束

① O K Iグループへの事業移管は計画通り進捗

- 計測半導体・産業用プリント配線板（17年3月末完了）
- 宇宙・防衛向けプリント配線板（18年3月末完了）
 - ➔ J A X A等認定完了
 - ➔ 技術移転も完了

② 山梨アビオニクスのおペレーション終了

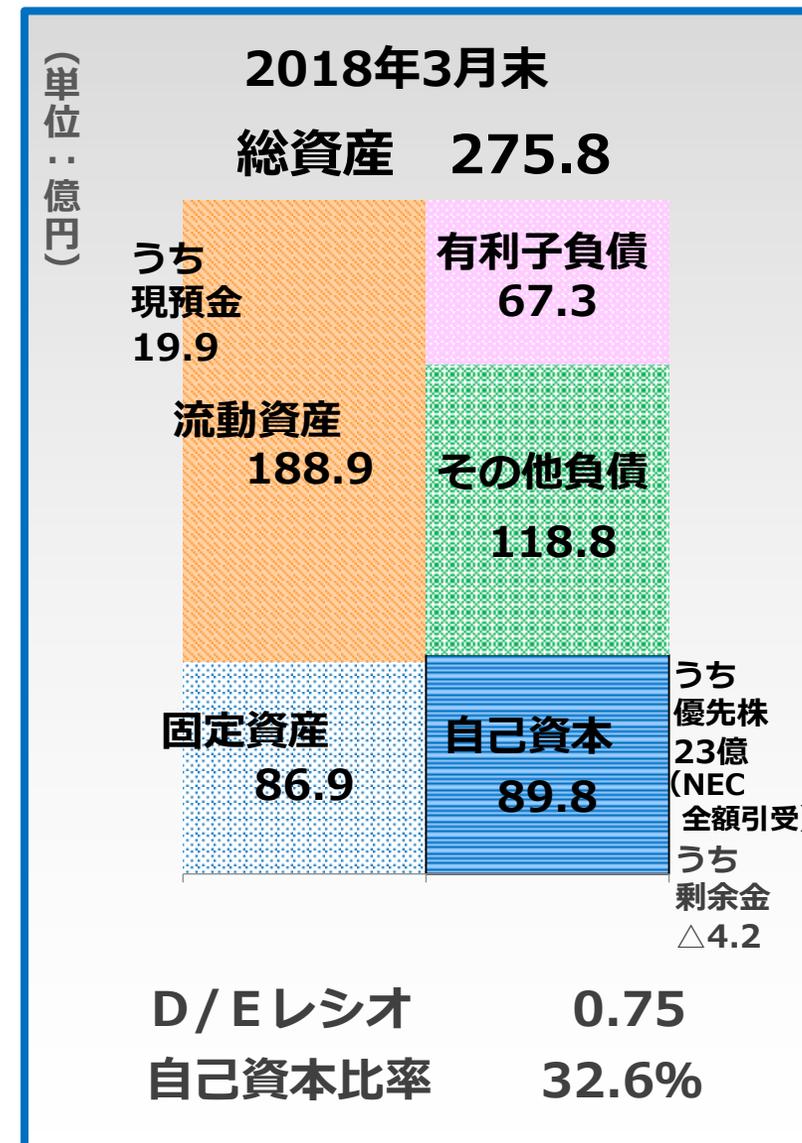
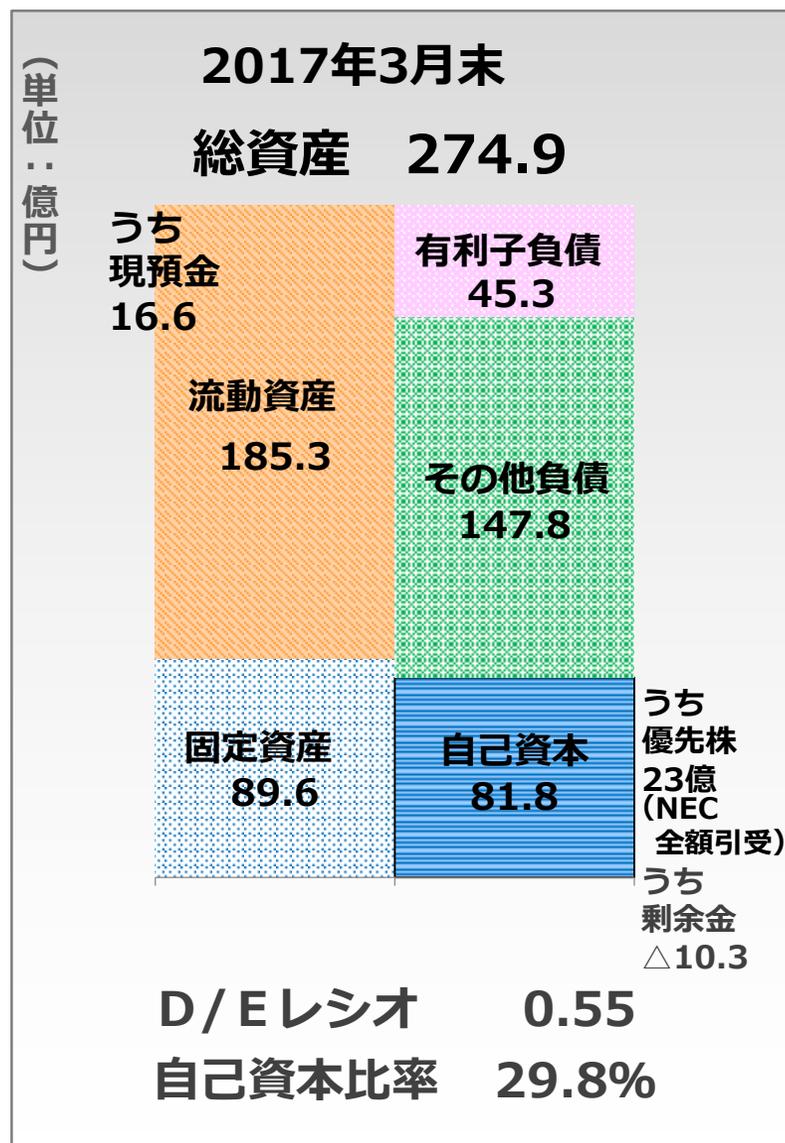
- 2月内層投入終了、3月検査終了
- 18年度1Qの出荷/検収で営業活動完了予定

➔ 18年3月末をもって工場閉鎖

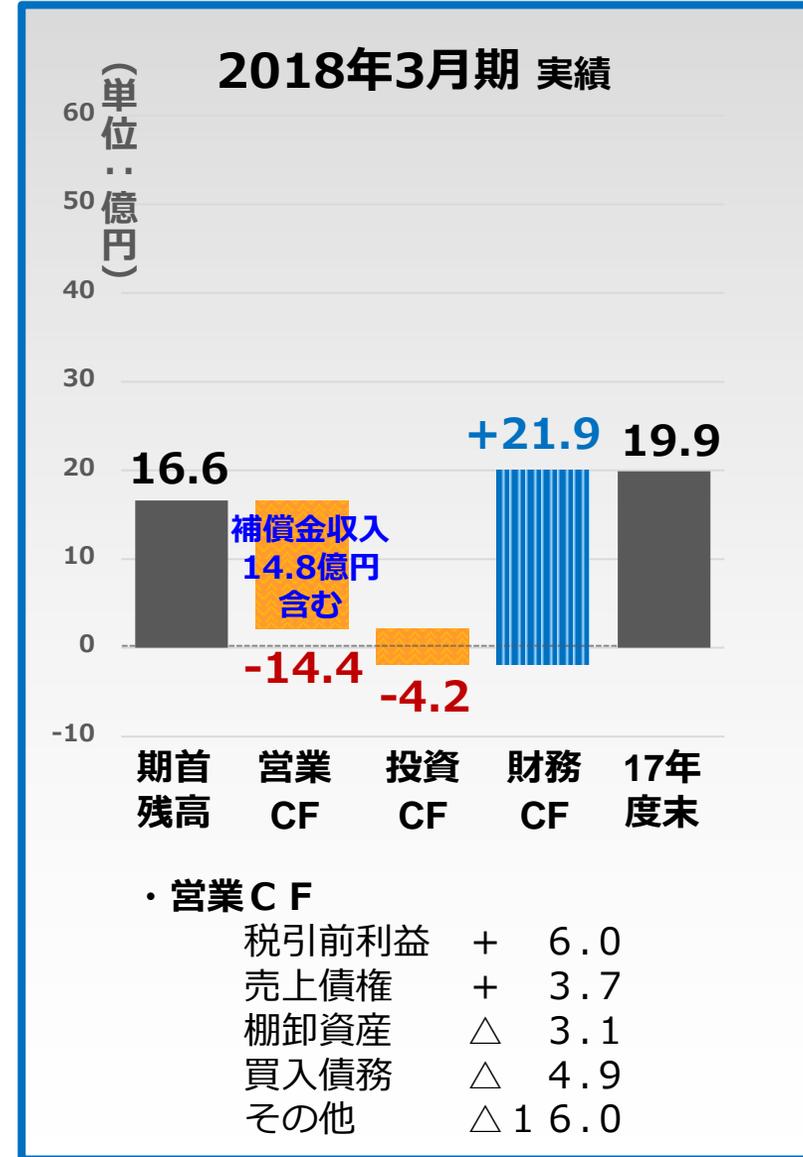
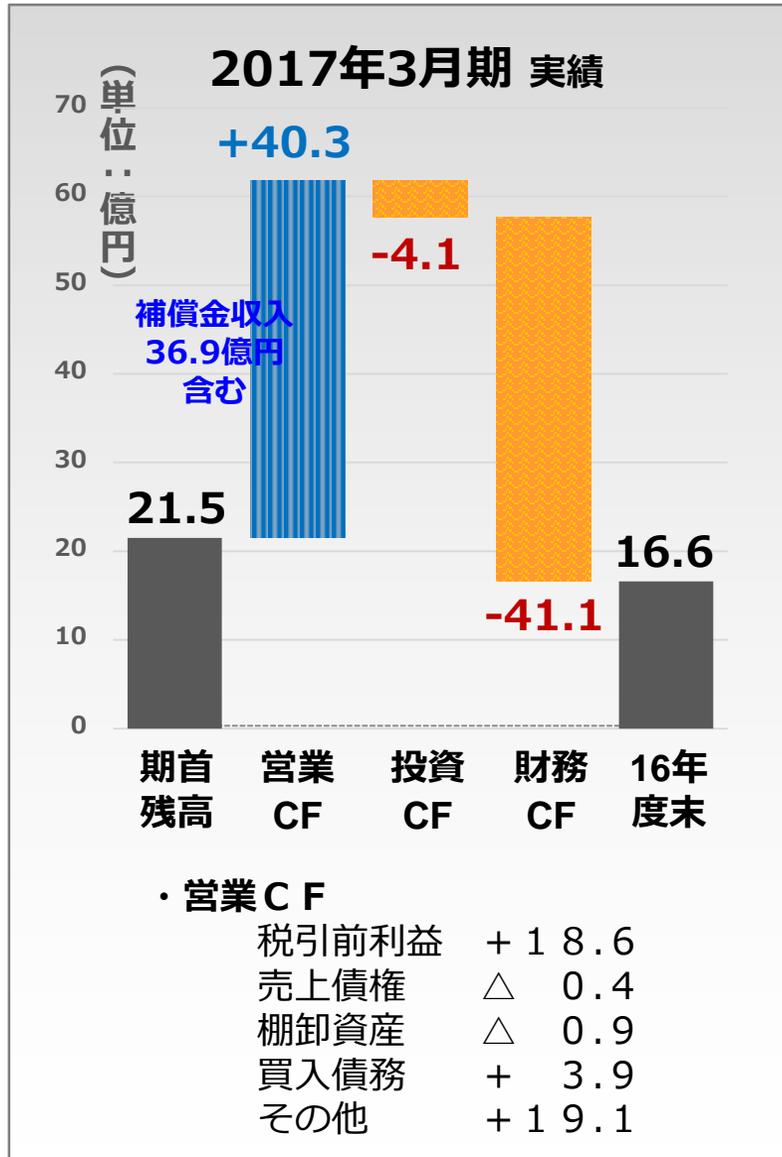
③ 山梨アビオニクスの建屋解体・更地化

- J R東海へ譲渡（19年3月末までの完了を目指す）

2018年3月期 決算 貸借対照表



2018年3月期 決算 キャッシュ・フロー



1 . 2018年3月期決算

2 . 2019年3月期通期業績予想

3 . 資本勘定内の振替及び山梨アビオニクス吸収合併

4 . 中期経営計画の進捗状況

“顧客価値経営の推進”

ニッチな領域での競争力強化・差別化を推進
2つのセグメントで成長を目指す

情報システム (防衛・宇宙)

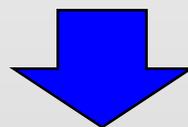
- ・ 社会の安心安全に貢献
- ・ リアルタイム処理、耐環境の実績・ノウハウ
- ・ 全社の技術基盤

電子機器 (接合・赤外)

- ・ 接合4工法を活かした「つける」顧客価値
- ・ 「見えないものを見せる」顧客価値

2019年3月期 遂行方針

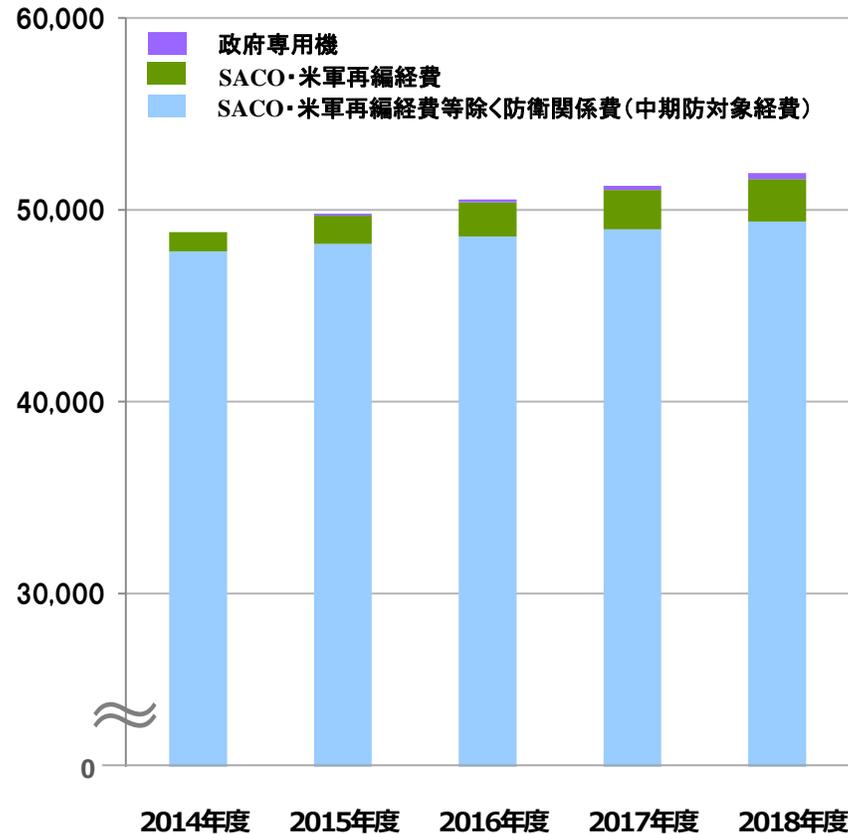
- ① コンプライアンス（法令遵守）の徹底
- ② 受注・売上の拡大
- ③ 収益性の改善
- ④ QCDの継続的な改善
- ⑤ 資産効率の向上によるキャッシュ・フローの改善



復配への足固め

防衛関係費の推移

(単位：億円)



注1:SACO (Special Action Committee on Okinawa) は、平成7年11月に設置された、在日米軍に係る土地・施設の返還、訓練・運用改善による沖縄県の負担軽減等についての日米協議に係る特別委員会の呼称。

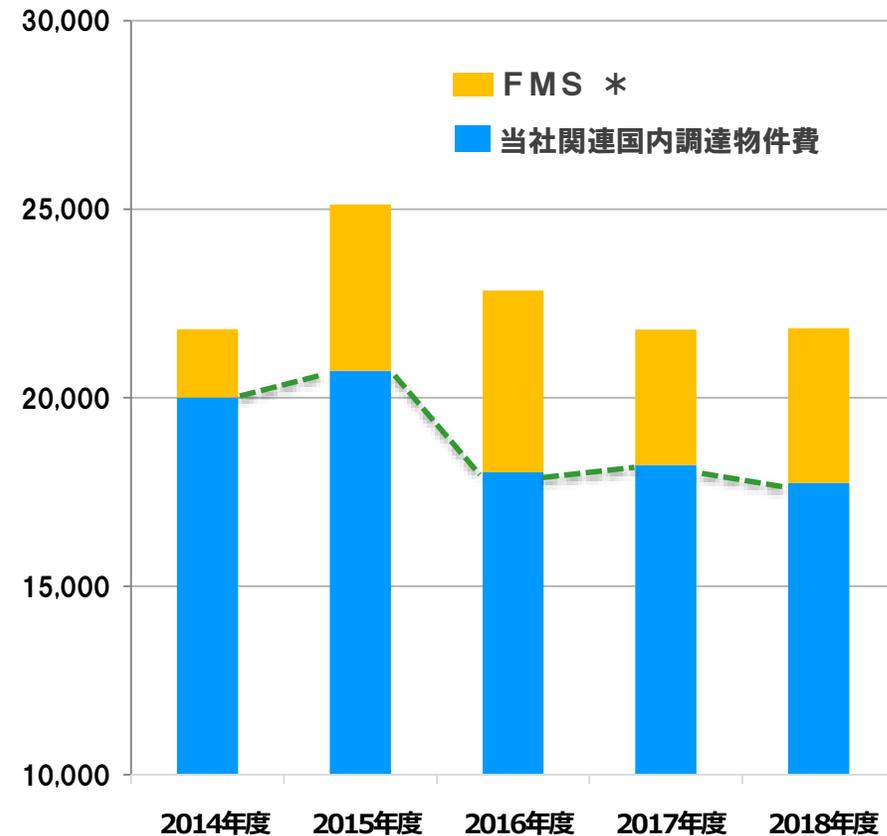
注2:米軍再編は、平成18年5月に日米安全保障協議委員会で承認された「再編の実施のためのロードマップ」に基づいて実施する、在日米軍の日本国内外の再編等に係る事業。

(注) 財務省 財政制度分科会(平成30年4月6日開催)資料より一部抜粋
(財務省ホームページ)

https://www.mof.go.jp/about_mof/councils/fiscal_system_council/sub-of_fiscal_system/proceedings/material/zaiseia300406/03.pdf

防衛予算の物件費の動向

(単位：億円)



(注) 防衛省「我が国の防衛と予算」防衛関係費データから当社独自試算
(防衛省ホームページ <http://www.mod.go.jp/j/yosan/2018/yosan.pdf>)

* FMS : Foreign Military Sales 有償援助調達と呼ばれ、
アメリカ国防総省が行っている対外軍事援助プログラム

2019年3月期 連結業績予想サマリ

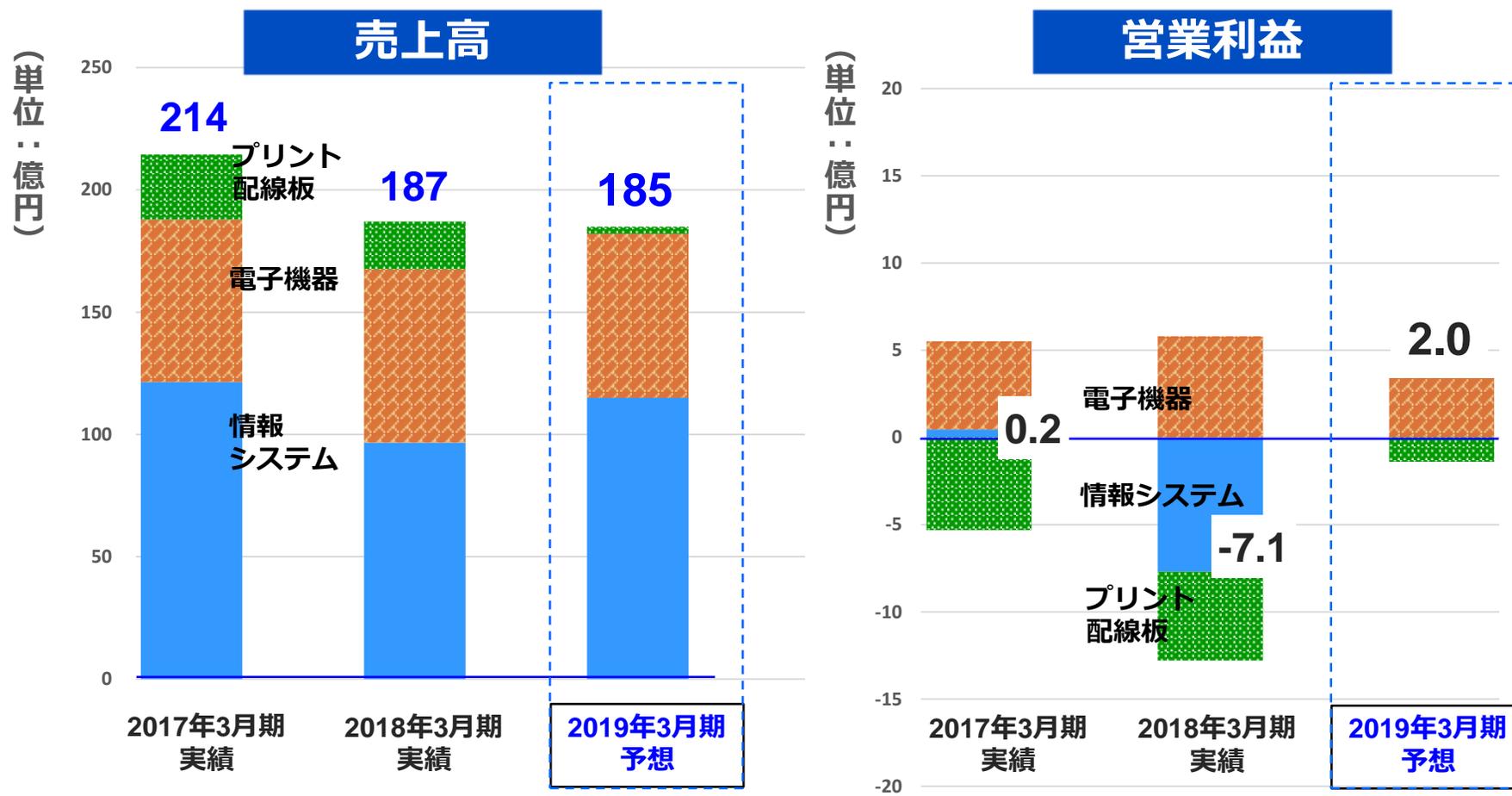
(単位：億円)

	2018年3月期 実績	2019年3月期 通期予想	増 減
売 上 高	187.1	185.0	△ 2.1
営 業 利 益	△7.1	2.0	9.1
経 常 利 益	△7.6	1.5	9.1
当 期 純 利 益	6.1	0.0 [*]	△ 6.1

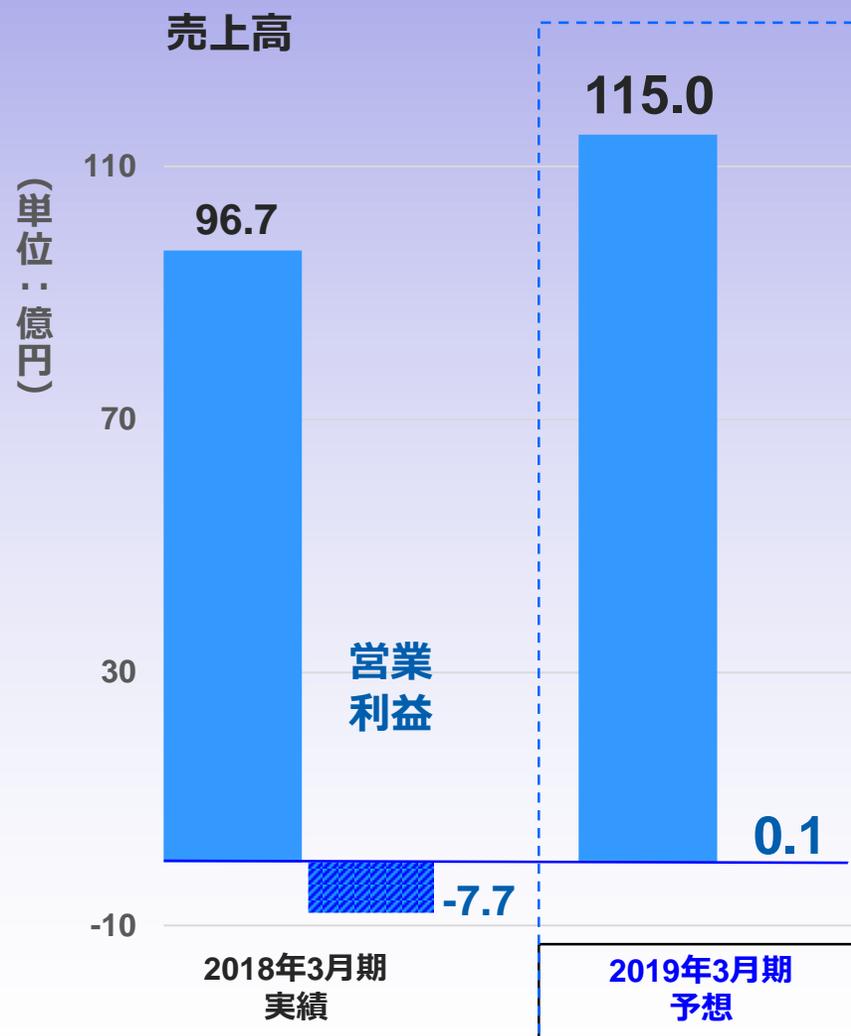
* JR東海からの第3回目の補償金受領時期は未定のため予想には含めていない

2019年3月期 業績予想 セグメント別

- 継続2セグメントで事業を遂行
- 情報システムの増収増益で計画達成を目指す



2019年3月期 業績予想 情報システム

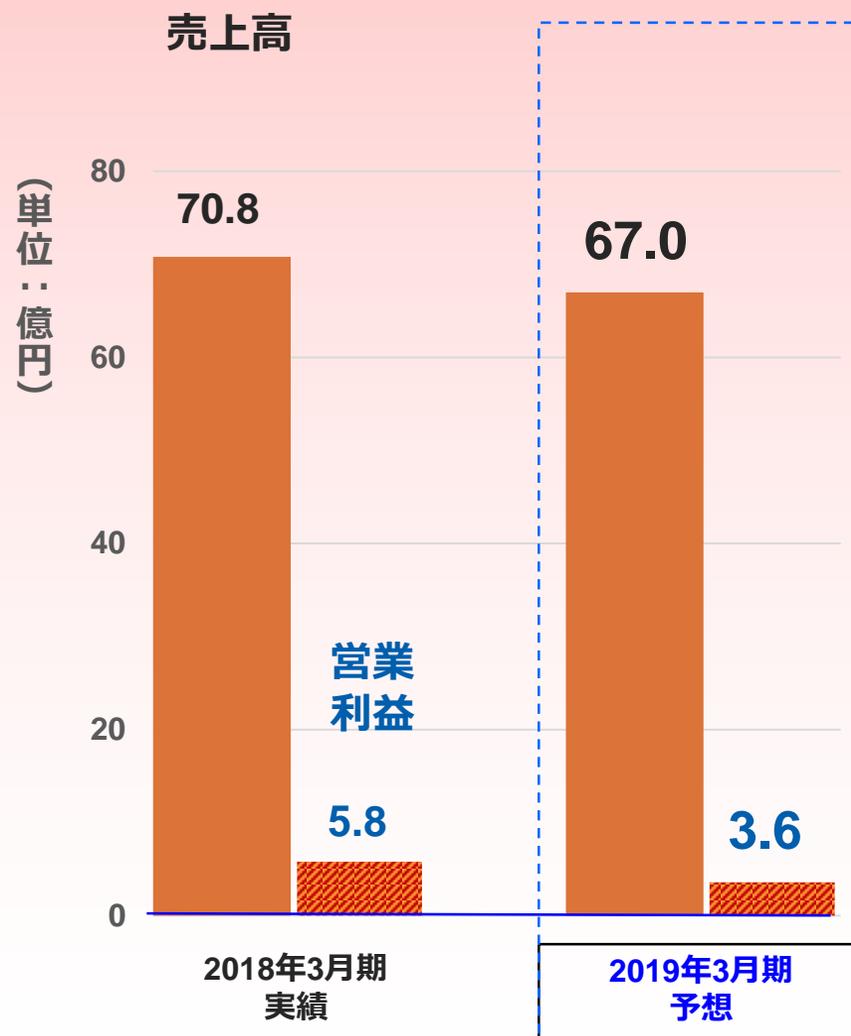


➤ 受注残高の増加を背景に確実に契約を履行し増収を目指す
期首前期比 +16.2億円

➤ 売上高増加による粗利改善
➤ 売上高増加による操業改善
➤ 不採算プロジェクトの発生を抑制

➤ 次期中期防衛力整備計画に向けた顧客提案活動を継続
➤ 営業・技術一体による、新規受注拡大活動を強化

2019年3月期 業績予想 電子機器



- スマートフォン等の部品の小型化向け製造装置の投資一巡により減収見込み
- 商品力×営業力強化により顧客価値提案力を強化
- 新製品投入、成長のための開発投資を計画

(接合機器)

- ・ “つける”ことの更なる顧客価値を創造
 - I o Tによる品質管理
 - トレーサビリティ強化による品質向上
 - アプリケーション領域の拡大
 - 車載モータ/内装品向けの新製品投入

(赤外線サーモグラフィ)

- ・ 顧客価値を創造した付加価値製品を市場へ継続投入
- ・ 強みのある製品を市場に投入し新領域（製造ライン検査等）へ展開

- 1 . 2018年3月期決算
- 2 . 2019年3月期通期業績予想
- 3 . 資本勘定内の振替及び山梨アビオニクス吸収合併**
- 4 . 中期経営計画の進捗状況

2018年3月末実績で連結欠損金が△4.2億円まで改善

①資本勘定内振替の内容

→ 連結繰越利益剰余金の改善 +8.3億

- ・ 資本準備金 → 繰越利益剰余金 7.5億
- ・ 利益準備金 → 繰越利益剰余金 0.8億

効力発生日 2018年6月27日（6月26日開催予定の株主総会の翌日）

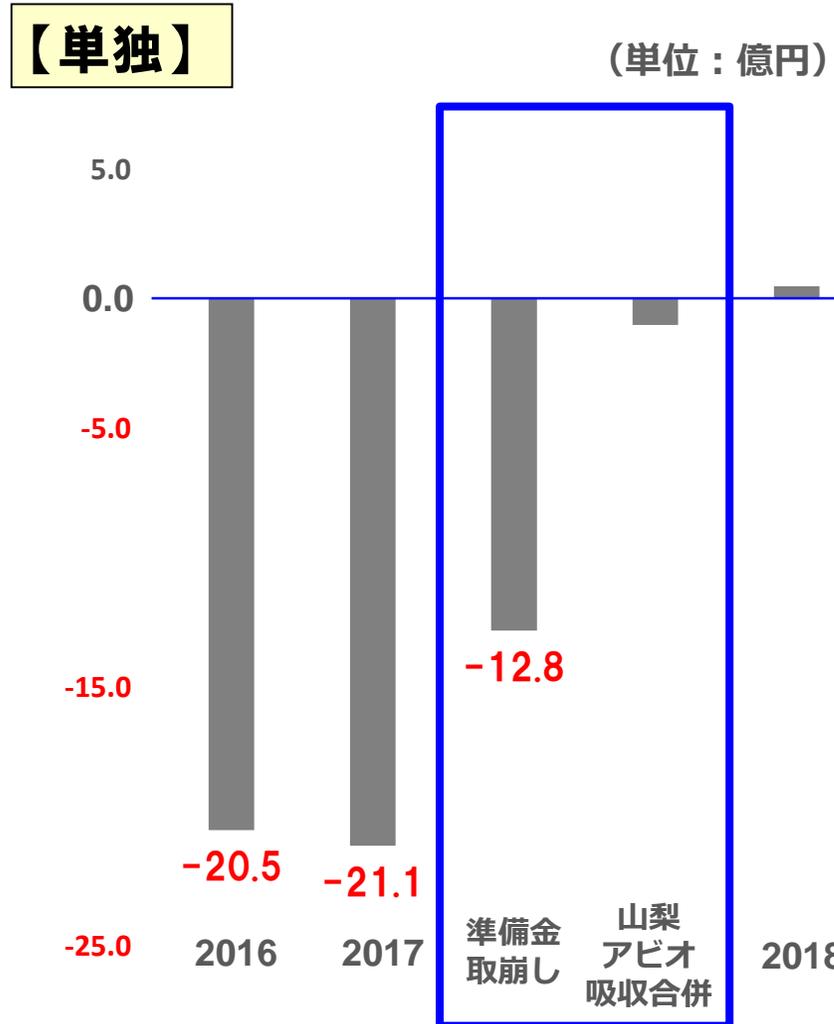
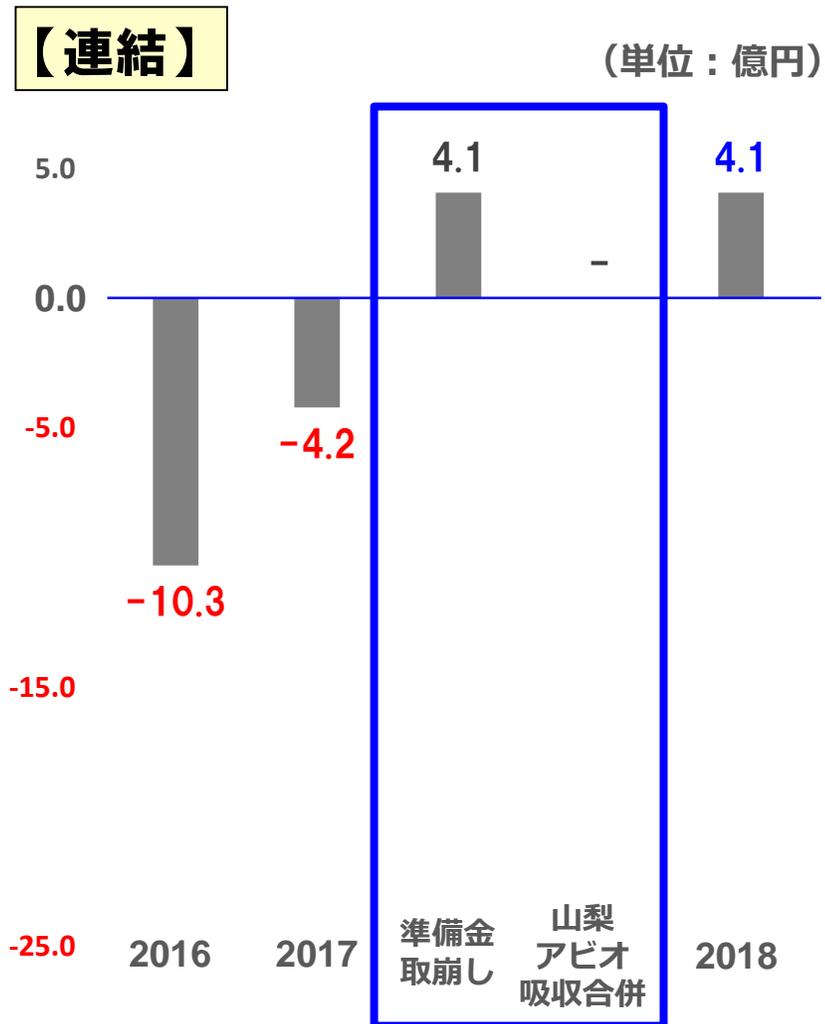
②山梨アビオニクス（100%子会社）の吸収合併

- プリント配線板事業の事業移管が進捗し、2018年3月末をもって山梨アビオニクスは工場閉鎖、建物の取り壊し等の準備開始
- 山梨アビオニクスの剰余金を日本アビオ（単独）に取り込む

効力発生日 2018年10月1日（予定）

剰余金の推移

剰余金はプラスに転じる見込み



* JR東海からの第3回目の補償金受領時期は未定のため2018年予想には含めていない

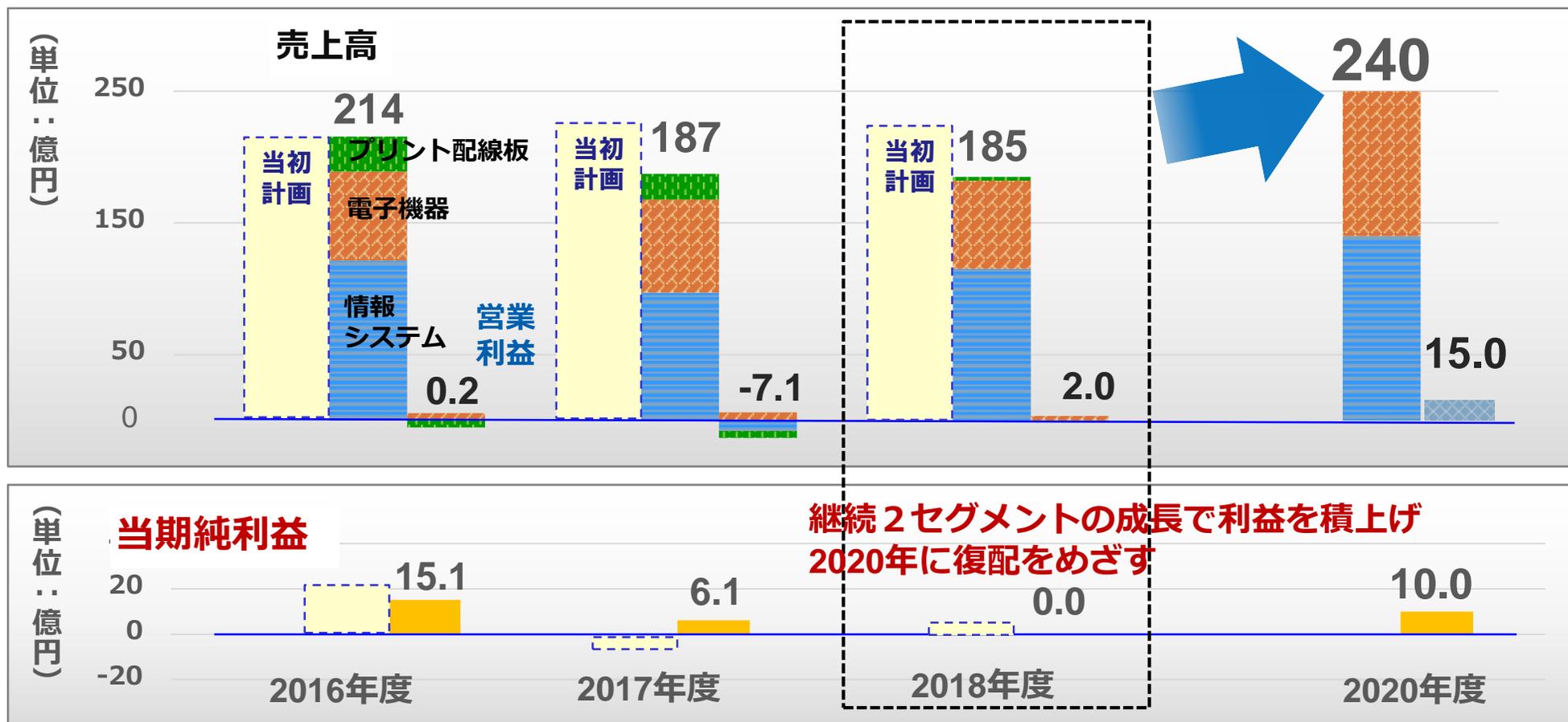
- 1 . 2018年3月期決算
- 2 . 2019年3月期通期業績予想
- 3 . 資本勘定内の振替及び山梨アビオニクス吸収合併
- 4 . 中期経営計画の進捗状況**

中期経営計画進捗状況

1年目の2016年度
売上高、営業利益
は計画値確保

2年目の2017年度
売上高未達、当期
純利益は計画値過達

2018年度は減収となるもの
の営業黒字を確保。
2020年目標達成を目指す



*当初計画は2016年11月公表の中期経営計画

日本アビオニクスは次のステージへ

－ 創立60周年となる2020年に向けて －

次のステージへ

Challenge For The Future

ステークホルダーの価値拡大

独自のエレクトロニクス技術とシステム技術により、お客様のために新しい価値を創造し、安全で豊かな社会の実現に貢献します。

安心・安全への貢献の拡大

- ・ 顧客の安心・安全
- ・ 株主の安心・安全
- ・ 従業員の安心・安全
- ・ 社会の安心・安全

補足

2013～17年度決算 ファクトデータ

連結損益計算書

セグメント情報

海外売上高、設備投資・減価償却費・研究開発費

連結貸借対照表

連結キャッシュフロー計算書

主要指標

2013～17年度ファクトデータ（補足資料）

■連結損益計算書

（億円・％）

	2013年度 実績	2014年度 実績	2015年度 実績	2016年度 実績	2017年度 実績
売上高	272.8	256.9	229.2	214.4	187.1
売上原価	214.5	201.0	176.8	168.3	148.4
(原価率)	78.6%	78.3%	77.1%	78.5%	79.3%
売上総利益	58.3	55.8	52.4	46.1	38.7
(GP率)	21.4%	21.7%	22.9%	21.5%	20.7%
期間費用	51.9	51.0	46.6	45.9	45.8
(SGA比率)	19.0%	19.8%	20.4%	21.4%	24.5%
営業利益	6.4	4.8	5.7	0.2	-7.1
営業外損益	1.2	0.5	0.9	0.8	0.6
経常利益	5.2	4.3	4.8	-0.6	-7.6
(利益率)	1.9%	1.7%	2.1%	-0.3%	-4.1%
特別利益	0.0	0.0	0.1	36.9	16.0
特別損失	0.8	4.0	0.4	17.8	2.3
税引前利益	4.4	0.3	4.5	18.6	6.0
法人税等	0.4	4.5	3.3	3.5	-0.1
当期純利益	4.0	-4.2	1.2	15.1	6.1
(利益率)	1.5%	-1.6%	0.5%	7.0%	3.2%

2013～17年度ファクトデータ（補足資料）

■セグメント情報

(億円・%)

		2013年度 実績	2014年度 実績	2015年度 実績	2016年度 実績	2017年度 実績
情報システム	売上高	163.6	151.8	130.9	121.5	96.7
	営業利益	8.5	6.2	4.4	0.5	-7.7
	(利益率)	5.2%	4.1%	3.4%	0.4%	-8.0%
電子機器	売上高	72.0	72.5	67.6	66.3	70.8
	営業利益	-3.0	0.1	3.2	5.1	5.8
	(利益率)	-4.1%	0.1%	4.8%	7.6%	8.2%
プリント配線板	売上高	37.2	32.6	30.7	26.6	19.6
	営業利益	0.8	-1.4	-1.9	-5.3	-5.2
	(利益率)	2.3%	-4.4%	-6.2%	-20.0%	-26.4%
合計	売上高	272.8	256.9	229.2	214.4	187.1
	営業利益	6.4	4.8	5.7	0.2	-7.1
	(利益率)	2.3%	1.9%	2.5%	0.1%	-3.8%

2013～17年度ファクトデータ（補足資料）

■海外売上高

（億円・％）

	2013年度 実績	2014年度 実績	2015年度 実績	2016年度 実績	2017年度 実績
情報システム	0.4	0.8	0.3	0.1	0.1
電子機器	26.1	27.4	27.0	33.3	41.6
プリント配線板	1.6	2.7	2.8	3.1	0.9
合計	28.1	30.9	30.1	36.5	42.6
売上高比率	10.3%	12.0%	13.1%	17.0%	22.8%

■設備投資、減価償却費、研究開発費

（億円・％）

	2013年度 実績	2014年度 実績	2015年度 実績	2016年度 実績	2017年度 実績
設備投資	6.0	5.2	1.3	1.9	4.2
（売上高比率）	2.2%	2.0%	0.6%	0.9%	2.3%
減価償却費	5.3	6.2	4.5	4.7	6.6
研究開発費	6.1	3.7	3.5	4.4	3.8
（売上高比率）	2.2%	1.4%	1.5%	2.1%	2.0%

2013～17年度ファクトデータ（補足資料）

■連結貸借対照表

（億円）

	2013年度 実績	2014年度 実績	2015年度 実績	2016年度 実績	2017年度 実績
流動資産	207.0	198.8	185.6	185.3	188.9
固定資産	89.6	95.9	89.9	89.6	86.9
有形固定資産	64.0	62.9	60.1	58.3	55.8
無形固定資産	4.8	3.9	2.9	2.5	1.6
投資等	20.8	29.1	26.8	28.8	29.5
総資産	296.7	294.7	275.5	274.9	275.8
流動負債	139.7	111.0	112.1	115.6	100.1
固定負債	98.9	114.0	95.6	77.5	85.9
負債	238.5	225.0	207.7	193.1	186.0
資本金	59.0	59.0	59.0	59.0	59.0
資本剰余金	7.5	7.5	7.5	7.5	7.5
利益剰余金	-21.3	-26.3	-25.4	-10.3	-4.2
その他	12.9	29.6	26.8	25.7	27.6
純資産	58.1	69.7	67.8	81.8	89.8
負債・資本	296.7	294.7	275.5	274.9	275.8

2013～17年度ファクトデータ（補足資料）

■連結キャッシュフロー計算書

（億円）

	2013年度 実績	2014年度 実績	2015年度 実績	2016年度 実績	2017年度 実績
税引前利益	4.4	0.3	4.5	18.6	6.0
減価償却費	5.3	6.2	4.5	4.7	6.6
売上債権増減	-11.7	1.0	12.5	-0.4	3.7
棚卸資産増減	3.8	4.8	-1.5	-0.9	-3.1
買入債務増減	-3.6	-1.8	-6.4	3.9	-4.9
その他	21.1	2.2	-12.3	14.4	-22.6
営業C F	19.2	12.7	1.2	40.3	-14.4
設備投資	-6.5	-5.3	-2.6	-4.1	-4.3
その他	-8.0	0.6	0.4	0.0	0.1
投資C F	-14.5	-4.7	-2.3	-4.1	-4.2
借入金増減	-5.9	-8.9	-0.1	-41.1	21.9
その他	-0.0	-0.0	-0.0	-0.0	-0.0
財務C F	-6.0	-8.9	-0.1	-41.1	21.9
増減（合計）	-1.2	-0.8	-1.1	-4.9	3.4
前期末	24.6	23.4	22.5	21.5	16.6
当期末	23.4	22.5	21.5	16.6	19.9

2013～17年度ファクトデータ（補足資料）

■主要指標

（億円・％）

	2013年度 実績	2014年度 実績	2015年度 実績	2016年度 実績	2017年度 実績
総資産	296.7	294.7	275.5	274.9	275.8
純資産	58.1	69.7	67.8	81.8	89.8
自己資本比率	19.6%	23.7%	24.6%	29.8%	32.6%
有利子負債残高	95.4	86.5	86.4	45.3	67.3
D/Eレシオ	1.64	1.24	1.27	0.55	0.75
ネットD/Eレシオ	1.24	0.92	0.96	0.35	0.53
ROE	6.9%	-6.0%	1.7%	18.5%	6.8%
EBITDA	11.7	11.1	10.3	4.9	-0.5

< 将来予想に関する注意 >

本資料に記載されている業績、財政状態その他経営全般に関する予想、見通し、目標、計画等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいております。これらの判断及び前提は、その性質上、主観的かつ不確実です。また、かかる将来に関する記述はその通りに実現するという保証はなく、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

その要因のうち、主なものは以下の通りであります。これらに限られるものではありません。

- ・ 官公庁の需要動向等による影響
- ・ 日本電気株式会社との関係
- ・ 価格競争
- ・ 技術革新への対応
- ・ 災害等の影響
- ・ 退職給付債務 等

将来予想に関する記述は、あくまでも本資料の日付における予想です。新たなリスクや不確定要因は随時生じ得るものであり、その発生や影響を予測することは不可能であります。また、新たな情報、将来の事象その他にかかわらず、当社がこれら将来予想に関する記述を更新し、公表する義務を負うものではありません。



Avio

www.avio.co.jp